論說

所謂時局の認識と道路改良

田川大吉郎

一

廣田首相は、その內閣組織の際、時局に對する認識不足の非難を、某方面から浴せられた相である。そこで、それは何を謂ふのであるか、某方面の主張して肉薄した時局の認識不足とは何を意味するのであるか、吾等に於ても、視察する必要がある譯である。

廣田首相が、それを、何う理解し、悟達せられたかは分らないけれど、若し外相候補の吉田氏、遞相候補の下村氏、法相繼任の筈の小原氏等が、その後、有田氏に換へられ、賴母木氏に換へられ、林氏に換へられて、某方面で、やゝ、納得せられたと謂はるゝ變遷の跡から察すれば、全體としては尙明解し兼ぬる向に

も、一部の事情は略ゝ推測し得られるのである。

さりながら、その藏する所の意義は深刻で、その影響する所の範圍は廣い、吾等は、念を入れて、その內容を檢討し、大過なきを期せねばならない。從つて、その明徵若くは明徹のためには、政府は、此上の發表を吝まれないであらう、これを今日のまゝの不明瞭の態に放任して置いて、そして、國民に過ちなからんことを期せよと望むのは無理であらう。

二

私の臆度して居る所を述べて見る、それは甚しく大膽に過ぎ、輕急に過ぎると思ふけれど、それを述べて見ないと、此の際の論議が進まないから、强ゐて一斑を述べて見ると、その所謂時局の認識論の中には、次の樣な問題が籠つて居るのであらう。

甲、今日の日本には、外來の國難が逼迫し、何日何時爆發し衝突するかも測られない、危急の狀勢がある、それ故に日本は、何を舍いても、國防第一、それに全勢力を集注せねばならぬ。

乙、國民間の貧富の懸隔が餘りに甚しい、これは公正でない、軍人の正義の觀念、社會的正義の觀念はこれを承知しない、これを此のまゝに放置しては、社會の秩序が成り立たない、故に、至急にこれを改善する必要がある、ぐづ〳〵してゐては逐ひ着かない、且、それは、大膽に、大手術を行はねばならぬ、廣田內閣には、先づその決心覺期が切要である。

丙、すべて自主獨往の意氣が必要である、今日の日本はそれを缺いて居る、それを缺いて居る譯は、日本の國體觀念が明徵でないからである、日本の皇威を世界に輝かし、八紘に輝かすことが、日本の國體觀念の基調である、この基調の觀念が缺けて居るから、やゝもすれば、日本精神が弛廢し、日本國民が、世界の選民として、世界萬國民の上に駕して立つべき理想と意氣とが缺け、今日の樣な偷安姑息の風に墮して居るのである、此の上に於て、日本國民は世界の選民であるといふ、特種の民族であり、特種の國家である意識を高め强めねばならない。

丁、斯くして進むには、大いなる費用が要るであらう。それは分り切つて居る、それは租稅だけでは足らないから借金に由つても宜しい、借金に由ることが惡いとすれば、何か、他の方法は無いか、國家の必要は何うしてゞも充さなければならぬ。それに應ずる工夫を立てることが財政家の任である。從來の如き退嬰、消極の財政策では不可、この時に應ずる積極的計畫を立てよ、それは、常調に絕したとても差支へないのである。非常の時だから、常調に囚はるべきでない。非常、特異、別段の計畫を立てよ。

私は、略ぼ、以上の如きものが其の要領であつたらうと解する。そして、それは、現にさう有るのであらうと解する。

三

以上の如き要望若くは論定に對し、其の可否を一々評論することは、固より本論の目的でないが、略ぼ以上の如き要求が、某方面に在り、それらを達成せんとして、現内閣が鋭意努力して居られるものと解し、そして、此の際の此の論に私の言ふて置きたく思ふことは、次の如くである。

現内閣は、多分「甲」の計畫、卽ち、此の際の國防計畫を補充することに忙殺された餘力を剩し得られないであらう。それは、普通の財政計畫では、應じ切れない程の大きな計畫であるから、「丁」の如き、非常、特異、別段の計畫を立てよと要望せらるゝのである。何うして、その非常、特異、別段の計畫を立てゝ、その要望を充し、所謂今日の危局を解決し若くは通過するか、それが、現内閣に課せられた重大の使命である。その使命は現内閣の力に降るものがあるかも知れない、さりとて、現内閣はそれを果し得ないと見限つたものでもあるまい、現内閣は、折角その使命を果すべく、一心不亂に焦り勵まるべきである。現に、焦り勵みつゝあらるゝのである。

それ故、現内閣に其の他の事を望むのは無理である。吾等は、其の他の事を現内閣に望まない樣にすべきである。それらの注文は一切差扣ゆることにすべきである、咽喉もとまで迫り來つたそれらをも一切呑み下して外に吐き出さない樣に、遠慮し戒愼すべきである。

斯く思ふ時、私は「乙」の問題、卽ち貧富の問題を今日の問題とすることを、不當と思ふ、それは他日に延期すべきであると思ふ。問題の性質が、歷然異なつて居る、軍國的性質の問題と、その性質に於て、關係に於て、影響に於て、全く異なつて居る。且それは獨り今日に始まつた問題でなく、昔から有りつゞけ

て今日に至り、いづれの時代にも、いづれの社會にも、曾て解決されなかつた。古今東西人の一樣に惱み來つた問題である。例へば、孔子が、ひどく貧乏されたかは疑問であるけれど、其の第一の弟子の顏淵は非常な貧乏をして、米櫃の底はしば〳〵空しかつたと傳へられた。その時分盜跖といふ惡者が居たが、その者は貧乏どころか、一代を凌ぐ豪奢の生活をした當時の人も、後世の人も、それを怪んで、永久に疑ひの盡きない語り草として居る。それを、此の時に、短兵急に解決せんとするのは無理である。殊に、軍國の準備が急を告ぐる今日に當り、それと、これとを、併せて一時に解決せんとすることは尙更無理である。廣田內閣がそれを今日に解決すべく、どんな策を立てんとせらるゝかは、私は未だ聞き及ばず。たゞ誰にせよ、それらの解決を今日に進めることを以て、私は時代錯誤、自家撞着の甚しき希望であると思ふ。私はこの貧富問題の今日に解決せらるゝことを期待しない。

此の問題の中には、社會的醫療の問題が含んで居るらしい、それは、ずん〳〵やるべきである。國家がそれに干涉すること、世話を燒くこと、手を引き足を引いて面倒されてやることは當然であるけれど、民間に勃興しつゝある組合制を是認し、それを奬勵し、幾分なりそれに補助してやることなどが、一番、簡便にして又確實の道であらう、それが無難に發達し、順當の効果を擧げた後、尙國家的に廣く、普ねく、施設するの必要を感ぜらるゝなら、その時、それを併合し、統制するがいゝだらう。私は、有らゆる社會的諸問題の中、この醫療救養の計畫を、今日にも實行し得る、事業、實行を焦りたい事業の一と思ふのである。

そして、其の「丙」の問題、日本國民を、天地の大神に惠まれた特別の選民であるとして、それ故に、日本人には特に與へられた優秀の思想があり、精神があり、本領があると做し、從つて、世界の列國民は、いづれも日本國民の下風を仰ぐべき樣、先天的に、我は尊とく惠まれて居る者の如く唱へることは、もつと靜かにもつと深く、研究せねばならないことで、私等の俄に何とも言ひ得べき所のことでない。私は、これを後日の問題に讓りたい。

四

そこに道路の問題が起る。特に、その改良の問題が起る。私は、これこそは、軍國の事急を告ぐる今日に當り、最も恰好な、最も緊要な、施設計畫であらうと思ふ。內務當局は、この點に於て、私と同見であらるゝか、否か、私は、その同見であられんことを希ひ、そして、同見であらるゝより外はないものだらうと思ふて居る。

一二の事例を擧げるが早途である。

「い」非常時は必らずしも戰爭時ではないけれども、戰爭時に準じて考へることが最も適切である。戰爭時には、一切の事を戰爭の目的に嚮往して動かしむるのであるから、その時、他の事業が休止され停止され縮少され、延期せらるゝことは當然である。日清戰爭、日露戰爭、事例は數々ある、海外諸國でも同樣である、一々擧ぐるにも及ぶまい。

「ろ」一九三一年、英國は本金位を停止するに當り、勞働者への保險割當を刪減し、教育費を縮少した、それ故に、勞働黨は內輪割れを生じ、マクドナルド等と、他のヘンダソン等一派は分離した。國家非常の際、社會方面の費用が後廻しにせらるゝことは、これぞ其の著明な一例、どうしても、さうなる、さうならざるを得ないのである。況んや、其のいよ〳〵戰爭に逢着したる際をや、それは、前段に概括して記した通りである。

「は」さり乍ら、道路の事は別である。道路は、戰時中に反つてます〳〵擴張さるゝのである。現に、滿洲への事件費一億八千餘萬圓、その中に多分の道路費が籠つて居ることは周知の事實である。滿洲を視察した者は、誰しも、その道路改良工事の盛んなことに驚いて居る、張學良時代にくらべ、それが別天地と思はるゝ程に發達して來たことを語る、道路は戰爭時に於て、殊に、急速に發達するものである。

私は、一九一九年の秋、白耳義に遊び、外務省の親切なる案內を受け、その自動車にて戰場一帶を視察した——安達大使が佛國に居られ、そこから白國政府へ申込んで下されたので、私は、斯く過分の待遇に浴したのである——その一日の夕方、案內者は途を急がせて、一時間六十五哩の速力を二時間ばかり走らせた、その際案內の吏員は申した、こんな早い自動車に乘られたことは失禮ながら始めてであらうと、私は、然りと答へた。そして、その道路の堅固に善く鋪設されてあることを褒めた所、彼は微笑しつゝ、それは戰爭のお蔭である。戰爭によつて、白耳義の道路も、佛蘭西の道路も、見違へる程發達して、お褒め下さる如き此の樣の道路が出來たのであると說明した。それに相違ない、

その道路は、戰爭によつて、特に、改良せられたのである。そして、そこの道路のみならず、戰爭は常に道路を改良するものである。道路とのみ限らない、港灣も改良さるるのである。有らゆる交通設備が改良さるるのである。

略〻斯の如し、內務省はこの時に於て、非常時卽ち準戰時と思はるゝこの時に於て、非常時局の眞相を認識せよ、その認識が未だ足らないと稱せらるゝこの時に於て、進んで道路改良の大計を立てらるべきである。それは陸軍に媚びなさいと申すのでない、決して媚びるのでない、時に相應した計畫を立つるのである。其の一は道路である。道路であらねばならない、內務省にして道路改良の計畫を立てらるゝ限り、內閣の幹部たる陸軍省は、それも陸軍省とは限らない、廣田內閣のために、幹部として、特に、經營措畫の重きに任じて居らるる人々は、必らずこの案を受け入れ、その成功を計らるるに相違ない、私は、道路改良の計畫が、他の諸計畫よりも眞つ先きに內閣一統の贊成を得同情を博すべきを疑はない。

但、他の贊成同情は後の事である。內務省の主管者が先づこれに着眼せられんことを祈る。

五

以上の希望と勸告に對し、或は言ふ人があらるゝであらう。戰時に對し、陸海軍部が改造を望み急施を必要とする道路は、所謂軍用道路であつて、一般民衆用の道路でない、本論はそれを混同して居る、

その區別を認めない見當違ゐの空論であると、

私はそれをも一應は考へて見たのであるが、

「い」軍用道路と、公共用道路とは、そんなに性質を異にし、用途を異にするものであらうか。

「ろ」軍用道路といはれ、その費用で開設せられたものですら、公共の利用に供されて居る所はいくらも在る、大體に於て皆然りと謂へよう。そして、民衆は其の利便をたゝへて居る。

「は」今は昔、日本の海岸鐵道を敷設する時代、それは軍事上の危險があるからとて、つとめてそれを避けんとし、議論があり、議論に打ち克つて山間線を作り、長く不便をかこたしめた所のあつたことは私も聞いて居る。しかし、そんな所すら、其の後の發達により變遷に由り、不便のかこちは、ほとんど全く無くなつた、要するに軍用道路も立派な民用道路である。その間に強ゐて區別を立てる異同は無いものゝ様だと私は認めて居る。

こんな様な私の疑問と解釋は皆間違ひであらうか、私は、大した間違ゐであるまい。左程の問題になるものであるまいと深く檢討せずして書いたのであるから、間違つて居れば教へていたゞきたい。但、本論中に、白佛の境で見た道路のことを記入したのは、聊かその邊に關する自家辯護の心をも籠めた積りであつたのだから、教へを聞きたいと申上ぐる間にも、それは大した問題でなからうとの考へを私は禁じ得ないで居る譯でもある。